

Hino Advancement Center Newsletter

日野振興センターだより

令和2年3月発行 no.28

MENU

【特集】

住み慣れたまちで いつまでも暮らし続けるために

- 安全な農作業で事故ゼロへ
～あなたの命、家族の幸せは守られていますか？～
- 山村の森林整備の加速化が期待される林業専用道が開通
～江府町 後畑線～
- 春日大社「最古の日本刀の世界 安綱・古伯書展」開催記念
「たたらと安綱のふるさと・鳥取県デー」
- 令和2年度 河川・道路整備ボランティア 募集!!
- 日野郡で輝く人「まめなか屋」
- 日野川の源流と流域を守る会
～令和2年総会・講演会を開催しました～
- 守ってから捕獲すへ!!



特集 住み慣れたまちで いつまでも暮らし続けるために

～日野郡3町と鳥取県の新たな取組がスタート～

- ◇日野郡では、これから急激に人口が減少していくことが推計されており、小規模集落の維持をはじめとする多くの課題が顕在化し多様化することが想定されます。
- ◇日野郡3町はそれぞれが、地域の賑わいを守り、地域住民が生き生きと暮らしていけるよう工夫しながら取り組んでいます。単独の町だけでは解決しにくい課題が多くなっています。
- ◇そこで、日野郡3町と鳥取県は『鳥取県日野郡連携会議』で、喫緊の課題である「住み慣れた地域で暮らし続ける仕組みづくり」及び「地域の担い手の育成、確保」について議論し、次に紹介する取組を連携して進めて行くことを共同で宣言しました。
- ◇日野振興センターでは各町役場と協力して、持続可能な地域づくりを進めていきます。



平井知事と3町長が共同宣言に署名しました。

住み慣れた地域で 暮らし続ける仕組みを作る

① 持続可能な地域交通体系を構築するため

住み慣れた地域で暮らし続けていくためには、買物や病院に行くための交通手段が必要です。
現在3町では交通事業者の協力を得て乗合バスやタクシーが運行されていますが、乗客の減少や運転士の確保など、様々な検討が必要になっています。将来にわたって、住民のみなさんの交通手段を確保していくためにはどういう方法があるのか？

② 住民自らが地域課題を考え解決する取組を応援します

この課題に対し3町と県は、地域の実情に応じた交通体系を目指して、これまでのやり方にとらわれず先進事例の調査や地域の状況の分析、施策の検討などの取組を連携して進めています。
人口減少や高齢化により、集落の共同作業や生活環境の維持が難しくなっています。今まで出来ていたことができなくなるといふ困りことは、中山間地域ではどこでも抱えている問題です。日野郡3町と県では、集落の方が膝を交えて話し合い、自分たちで課題を見つけ、何にどう取組むかを決める、行政がその取組を支援する、そういった仕組みづくりを始めたところです。
今年度は、日野郡各町でそれぞれ3地区をモデル地区として、座談会などを開いています。
みなさんの集落でも、モデル地区を参考にして、新たな取組を始めてみませんか。

災害時の学校給食相互支援

平成29年度の鳥取県日野郡連携会議で、日野郡3町と県は、「災害に強い日野郡づくり相互支援協定」を締結し、それを具体的に推進するため「災害等発生時における日野郡3町の小中学校給食の相互支援に係る協定」を締結しました。
この協定に基づき、平成30年度には図上訓練や配送訓練を行い、今年度は、江府町学校給食センターで調理した給食を日野町内の黒坂小、根雨小、日野中学校に運んで児童生徒と教職員が食べる「実食訓練」を、10月9日に行いました。
当日は、計画どおり学校給食衛生基準をクリアして、給食を提供することができました。今後も引き続き訓練を重ね、非常時の速やかな協力体制に備えます。

将来の地域の担い手を、 育てる・見つける

① 「公設塾」を設立し、 高校生に「ふるさと教育」を

日野郡内の小中学校では、地域の人や産業、暮らしなどを学ぶ「ふるさと教育」を実施していますが、高校生になると約8割が郡外へ進学し、地域との関係性が希薄になり、進学や就職を機に日野郡を離れてしまう一つの原因になっていると思われています。

そこで、将来地元に戻って地域の担い手となり地域の課題を解決する、そのような人材を育成したいと考え、日野郡3町が協力して「公設塾」を設け、若い世代と地域の結びつきを充実強化させることとしました。

塾の対象は、日野郡在住の高校生と日野高校の生徒です。

公設塾は、いわゆる「学習塾」と同様に教科学習も行いますが、主体的に自ら行動し、仲間とつながり、自身と地域の未来を描ける人材を育てるため、地域の中に出ていく「課題解決学習」や様々な体験も行います。学習内容は、塾生一人一人のニーズに合わせて個別に組んでいきます。

② 「関係人口」や移住定住 等を増やす

現在それぞれの町では、移住定住の推進や、町内の婚活支援など、いろいろな工夫をして地域の担い手確保に取り組んでいます。また、新たな地域の担い手として「関係人口」が注目されています。

関係人口とは、移住でも観光でもない、地域と多様に関わる人々のことで、地域の出身の人や過去に勤務していたり住んでいた人、行き来する人などです。
全国で人口減少する中、日野郡を元気にするために、移住定住のほかこの「関係人口」など、多様な地域の担い手を増やすことに力を入れて取り組んでいきます。

みらいチャレンジ教育 今春スタート 塾生募集中!

日野郡 公設塾

01 公設塾「まなびや縁側」は2020年4月スタート

- 開講時間/毎週月～金曜日 16時～21時 □場所/日野町山村開発センター
- 対象者/日野郡在住の高校生、日野高校生徒
- 受講料/月額5,000円 ※4～5月はトライアル期間:無料(予定)

02 プログラム(イメージ)

- 16:00～18:00 自主学習**
宿題や課題、授業の予習・復習など、自分が今取り組みたいことを深める時間。必要に応じて講師がサポート
- 18:00～20:00 個別指導**
講師が個別指導で、それぞれ生徒のニーズに合わせてサポートします
- 20:00～21:00 自立学習**
学んだことをさらに深める時間。自分の時間を有効に使って、成長につなげよう!

03 「やりたい!」をカタチに「まなびや縁側」の特徴

- ✓生徒一人一人のニーズに合わせた学習システム
- ✓個別指導で学びたいことを深められる!
- ✓AO入試や推薦入試に欠かせない「体験」の機会を提供
- ✓学校では出会うことができない地域で活躍する人や、日本や世界で活躍する人を招いた特別講座を開催
- ✓ふるさとが「学びのフィールド」に!地域資源を使った課題解決学習
- ✓高校生の「やりたい!」をカタチにできる!

公設塾に関する問合せ先/日野郡ふるさと教育推進協議会事務局(江府町教育委員会事務局内) 電話:0859-75-2223

山村の森林整備の加速化が期待される 林業専用道が開通 ~江府町 後紬線~

令和元年秋、江府町内に林業専用道「後紬線」が、6年の歳月をかけて全線開通しました。
この後紬線は江府町御机から宮市原の苦塔トンネルまでをつなぐ延長約8kmの林道(幅員3.5m)で、森林整備を進めるために、鳥取日野森林組合と江府町が連携して開設しました。



後紬線からの大山を望む眺望

思わずシャッターを切りたくなる
素晴らしい眺望!

林業専用道は、文字通り林業専用の道です。地元住民と林業関係者のみが利用できます。このため、一般の方は入ることができず、この景色をご覧いただくことは、残念ながらできません。
しかし、「せっかくの眺望、整備された道なので環境教育や森林、林業イベントなどで多くの人に見てもらいたい」といった声が出されていますので、実現した時にはぜひご参加ください。

メリット

この林業専用道ができたことによる最大のメリットは、間伐などの森林整備が進んでいくことです。この地域は、大山山麓特有の崖のような深い谷に挟まれているため、伐り出した木を運ぶことができず、長い間森林整備が行われてきませんでした。

尾根を貫く後紬線ができたことにより、伐りだされた木材を市場や工場に運ぶことができるようになり、先人達が苦勞して植えてきた木が活かされる時がきました。

また、副次的メリットとして、林業専用道事業を進める中で、資材道路として既設道路の拡幅などの改修が行われ、より良い路網が整備されることになりました。本線である後紬線と併せてますます森林整備が加速され、地元の皆さんが笑顔になっていただければと思います。

このように、地形の厳しい奥山であっても林道を開通することが可能となりました。
林道ができれば、森林整備が進んでいきます。あきらめず近くの森林組合、町、県にご相談ください。



安全な農作業で事故ゼロへ

~あなたの命、家族の幸せは守られていますか?~



1 鳥取県内の農作業事故状況

① 毎年発生する農作業事故

鳥取県では毎年10件程度の事故が報告され、5名程度の方が尊い命を失っています。全国的にみても毎年300~350名の方が農作業事故で亡くられており、事故防止に向けた一層の取組が必要です。

② 農作業事故発生の傾向

鳥取県で発生した農作業事故を機械別に見ると、トラクター及び運搬車等の乗用型機械が半数以上を占めており、そのほとんどが転倒・転落によるものです。

③ 鳥取県内事故事例

県内農作業事故発生件数(H22~R1)



県内機械別死亡事故の割合(H19~H28)



トラクターの転落:死亡

▼水路に転落したトラクター



写真出典:(一社)日本農業機械化協会HPより

耕耘作業中、周囲の確認不足により、8m下の水路にトラクターごと転落した。安全フレームは倒したまま、シートベルトは未装着であった。

トラクターの転落:足骨折

▼道路走行時はブレーキペダルを連結



イラスト出典:(一社)日本農業機械化協会HPより

ほ場作業を終え、農道に出て発進したところ、片ブレーキの状態でアクセルとブレーキを間違えて踏み込み横転した。

2 農作業事故発生を未然に防ぐために ~農作業におけるヒヤリ・ハットについて~

皆さんは普段の農作業中に「危ない」と感じる場面がありませんか。このような出来事に関して、労働安全における「ハインリッヒの法則」とよばれるものがあります。この法則では1つの重大事故には軽微な事故が29あり、さらにその事故に対して300のヒヤリ・ハット(小さな危険)があるとされています。



図:ハインリッヒの法則

ヒヤリ・ハットの数を少なくすることが重要です!
作業前の三つの対策から取り組みましょう!

- ①もの(機械・道具)の点検
- ②ほ場や作業場などの事前巡回
- ③「誰」が「どのような手順」で作業するか確認



3 農作業中の熱中症対策について!! ~春先にも注意が必要~

熱中症といえば、真夏に発症するイメージをお持ちでしょうが、実際には気温上昇に伴い、春先から農作業中の熱中症事故の発生がみられます(ハウス内作業など)。

- ①体調不良を感じたら、すぐに作業を中断
 - <代表的な症状>
 - ・手足のしびれ・めまい、吐き気・頭痛がある
 - ・汗をかかない・意識がもうろうとする・体がだるい
- ②今からできる熱中症予防対策
 - ✓気温の高い時間帯の作業を避ける
 - ✓作業前・作業中の塩分、水分補給
 - ✓予防グッズを有効活用(つばの長い帽子等)



愛(おしどり)と金運(金持神社)だけじゃない!!

「まめなか屋」(日野町特産品ブランド化実行委員会)

委員長 松本 洋一さん(鳥取県日野郡日野町根雨)

「まめなか屋」(日野町特産品ブランド化実行委員会)は、海藻米や鈴原糯(すずはらもち)*など日野町特産品のブランド化や、新しい特産品の開発・販売を目指し平成28年1月に発足しました。農産物の生産者や6次産業化に取り組む団体などメンバーの数は約30。令和元年10月にリニューアルオープンした「金持テラスひの」の売り場で地元の新鮮な野菜をはじめ、日野町自慢の特産品を販売しています。

健康によいと言われる「はぶ茶」の普及を目指し、日野町公式キャラクター「しいたん」のイラストを焼き印で入れたまんじゅうとセットにして「しいたんのティータイム」を発売。日野町の新しいお土産として喜ばれています。

今後はさらに地域や他の団体とも連携し、商品の開発やブランド化を進め、地域を賑やかにすることを目指しています。

*日野町などで、「まぼろしの米」として栽培されている品種。

「まめなかや?」は、日野の方言で「お元気ですか?」という意味です。みなさんの元気を思い、特産品をお届けします!
【委員長の松本さん】



日野町産の旬の野菜は大人気。「お客様に喜んでいただき、生産者にとっても生きがいとなっています。」



真心こめて育てられた自慢の野菜、美味しいですよ!もっと種類を増やしていきたいです。
【特産品販売マネージャーの高橋さん】

日野町振興局 地域振興課

電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



日野川の源流と流域を守る会

~令和2年総会・講演会を開催しました~

令和2年2月14日(金)、米子市文化ホールで、「日野川の源流と流域を守る会」の総会を開催しました。(参加者約110名)

松村順史会長(鳥取県経済同友会代表幹事)はあいさつで、「日野川は大山と並び鳥取県西部を代表するシンボルであり、その流域で育まれた自然、歴史、文化、食をよりアピールしていきたい。また、会員数を400名(現在386名)に増やしたい。」と抱負を語られました。

総会と併せて「日野川フォトコンテスト2019」の表彰式と講演会を行い、講演会では講師の株式会社石田コーポレーション代表取締役社長の石田康雄氏に「農業と観光への取り組み(インバウンド含む)」をテーマに、日野川上流域の耕作放棄地の再生や、夜間営業の観光農園(ステラベリーパーク日南)のオープン、また、日野川下流域での農福連携による農地再生など、自らが実践する農業を軸とした地域活性化の事業を紹介いただきました。

また、フォトコンテストの入賞作品を観賞し、日野川が地域にもたらす恩恵への想いを馳せることができました。

日野川の源流と流域を守る会では「会員大募集中」です。お申し込み方法や会費などについては、下記問い合わせ先までお願いします。



「日野川フォトコンテスト2019」表彰式



講演会の様子



日野川フォトコンテスト2019グランプリ作品「大山さんと日野川さん」

日野川の源流と流域を守る会事務局(日野振興センター日野振興局内)

電話:0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

春日大社「最古の日本刀の世界 安綱・古伯耆展」開催記念 「たたらと安綱のふるさと・鳥取県デー」

奈良県の春日大社で開催された「最古の日本刀の世界 安綱・古伯耆展」(令和元年12月28日~令和2年3月1日)に併せて、2月1日に「たたらと安綱のふるさと・鳥取県デー」を開催しました。



刀剣フォーラム

この鳥取県デーは、春日大社が所蔵する太刀が平安時代に伯耆国で作られた国内最古級の日本刀「古伯耆物(こほうきもの)」であることが判明した縁で、鳥取県がこの刀剣展に特別協力していることから開催することとなったものです。日野郡からは、奥日野の「印賀鋼(いんがはがね)」を刀剣展会場に展示しました。

「たたらと安綱のふるさと・鳥取県デー」では、刀剣フォーラム「安綱と古伯耆物~その魅力に迫る~」、江府町「下蚊屋荒神神楽」の上演、カニ汁の振る舞い、日野郡3町をはじめ関係する市町による観光PRなどを行い、200名を超える参加者の方に日野郡のさまざまな魅力を知っていただきました。

また、「下蚊屋荒神神楽」は、春日大社本殿前の直会殿(なおいでん)でも奉納され、多くの参拝者から大きな拍手や掛け声をいただきました。

鳥取県×春日大社

「刀剣とたたら」関連事業に
来年度もご期待ください!!

カニ汁振る舞い



下蚊屋荒神神楽の上演

日野町振興局地域振興課 電話:0859-72-2082 FAX:0859-72-2072

令和2年度 河川・道路愛護ボランティア 募集!!

「地元の河川、道路、公園」の除草等をしてくださる皆さまの活動を応援します

<募集する活動内容>

- 道路の清掃、除草又は植栽管理若しくは歩道除雪
- 河川の清掃、除草又は植栽管理
- 公園の整地、清掃、除草又は植栽管理



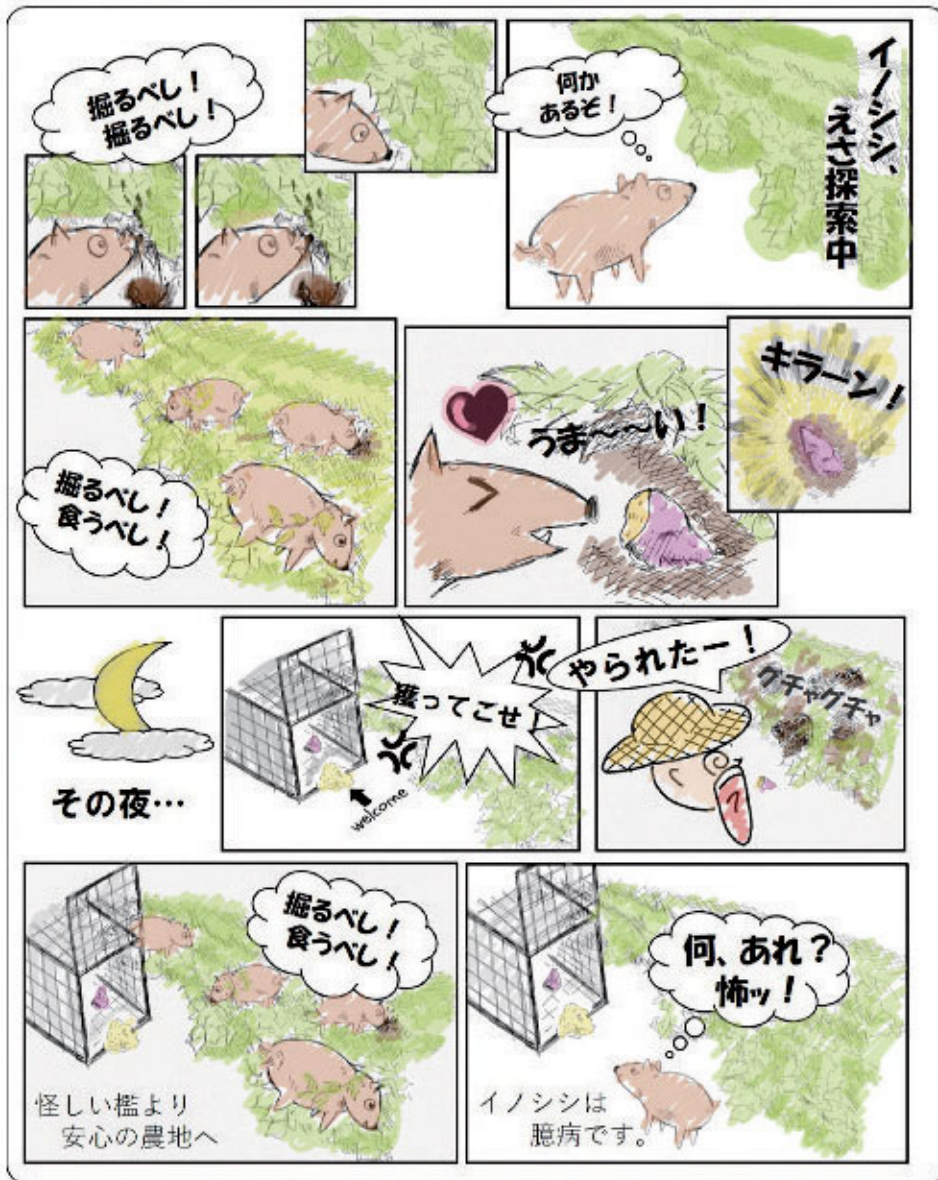
区分	参画型ボランティア 促進事業	協働型ボランティア 促進事業	スーパーボランティア 支援事業
目的	自主的な環境美化(清掃・除草・除雪等)を行う団体に対し、活動の実施に必要な援助を行います。	一定区間の維持管理(除草・植栽管理・除雪等)を行う団体の活動を支援します。	公園、河川敷等を活用した地域づくりや賑わい創出の活動と併せて、適切な維持管理を継続して行う団体の活動を支援します。
活動規模	任意の規模	道路 0.5km以上 河川 0.2ha以上 植栽柵 50m以上	活用する公共空間の範囲
交付金等	参加者 100円/人・時間 草刈機等100円/台・時間 (奨励金:上限10万円/年)	河川・道路・公園等 40円/m ² 植栽柵 500円/m ² 歩道除雪 20円/m (交付金:上限40万円/年、ただし、歩道除雪は20万円/年)	河川・道路・公園等 40円/m ² 植栽柵 500円/m ² (交付金:上限60万円/年) 施設設置の原材料費等の額 (簡易施設設置交付金:1団体につき50万円まで)
現在活動中の団体数	5	28	1

※事前にボランティア団体登録が必要です。詳しくは、下記のとおりお問い合わせください。

日野町土整備局 維持管理課 電話:0859-72-2047 FAX:0859-72-2092

守ってから 捕獲すべし！

日野郡鳥獣被害対策協議会
実施隊チーフ 木下卓也



イノシシの被害が発生したら、みんなが思うことは一つ、「獲ってごせ!」。でもイノシシの側から考えれば、安全に安心して人の農地で食べていたのに、突如として、慣れぬ檻が置かれた状況です。イノシシは実はかなり臆病な動物です。見慣れないものは警戒して近寄りません。檻にどれだけエサを入れても、安心して食べることができる農地が隣接していたら、檻ではなく、農地で食事をするのは当たり前…。では、どうすればよいのでしょうか?

答えは簡単なことです。農地に入れなければ良いのです。イノシシが農地に入れないように柵をして、仕方なしに近くにあった怪しいけど食べ物のある場所、つまり、檻へ誘導してやればよいのです。農地で食事をしていたのに入れなくなると、必ず柵を突破しようとしてします。でも突破する労力より、怪しい場所で食べることの方が楽であれば、必ず檻の中での食事を選びます。柵の外でしっかり捕獲をすることで、柵も壊されずに長持ちします。

①しっかり農地を「守る」→ ②柵の外で「捕まえる」→ ③柵が長持ちする。この順番が大事です。

「獲ってごせ!」の前に「守ってごせ!」。農地に合った守り方は、お気軽にご相談ください。

岡日野郡鳥獣被害対策協議会 電話:0859-72-1399



表紙写真

タイトル:春爛漫

撮影者:田邊 元己(日南写真会)

撮影者コメント:毎年春になると、あたりまえのように、きれいな花を咲かせて多くの人の目を楽しませてくれた、生山の川沿いに植えられた桜の老木。近年、頻繁に発生する自然災害対策として、護岸、道路の嵩上げ工事のため伐採される事となりました。幸いにも工事の見直し等で、二年寿命が延び、昨年が見納めという事でどうか分かりませんが、今までで一番のきれいな花を長期間にわたって楽しませてくれました。長い間、多くの人を楽しませてくれた桜の老木に感謝です。